

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	・地域サービスも考慮した地域で暮らすという事を支援していく理念を作っていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	・現状としてもう少し意識を持ち、一つでも多く利用者の方の立場になり理念に沿ったケアをしていきたい。 ・月ごとの目標を立ててもよいと思う。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	・新たに理念を作り、家族や地域の人に理解を求めよう活動をしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	・周辺地域の活性が見られており、地域との交流をもっと深めて行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地域の中で高齢者の方が少なく、現実的に依頼もない為、現在は取り組めていない。	○	・事業所として役立つことがないか話し合いを設け、自発的に地域に向けた講習会や勉強会を開催したい。また、AEDを設置して、緊急時の心強い存在場所になりたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・過去の評価や項目についての理解や検討課題に対して話し合い、指導を受けたところは改善を行うように取り組んでいる。	○	・改善部分のみならず、評価項目自体を普段から意識していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・決まった参加者が2ヶ月に1回運営推進委員会を開いて、利用者の方の状況や施設サービス等の状況を常に報告し、意見や理解を求めている。	○	・職員が行うサービスを客観的に指導できるよう、施設での困難事例を報告できれば、向上出来るのではないかと思う。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・市町村によく相談を行い、サービス向上に努めている。	○	・施設のアクションとアプローチ不足が考えられるので、施設が何らかのアクションを行い、それを公共機関と協力して行っていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・事業所で該当しないもあり、学ぶ機会が少なく、話し合いが不十分ではないか。	○	・該当する方がいつ入所されてもいように該当ケース等を紹介して職員会議等で話し合いの機会を持ちたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・全体会議でも触れ常に注意をはらい、職員は虐待行為等がないように気をつけている。	○	・虐待法に関する学習機会を増やし、特に精神的虐待については、何が該当するのかを学習したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	○	・家族によっては来所時にもう少し具体的に状態が聞きたいとの声もある。重要内容については管理者が報告し、平常や病気などの改善や現状については、管理者の下、どのスタッフに聞かれても統一した内容を答えられるように、情報・状況を共有(健康状態が説明できるような用紙を作成)できるようにしたい。また今以上に関わりを持てるように努めたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○	・もっと意見や提案を発言しやすい環境を持てればよいと思う。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	○	・今以上に個別対応が出来るように取り組みを進めたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている		・信頼関係を築くにはかなり時間が掛かるので、ようやく定着した馴染みの関係を維持していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・相互研修などを利用して研修を行っている。施設研修を行っている。 ・施設内研修と言う形の前に、ケア上で起きることをその場で指導しそれらを研修会で指導している。施設外の研修参加は自己に任せられている(個人で参加も含め)	○	・必要性の有無に関わらず、施設外の研修があれば参加の確認が行えるよう運営者と相談を行いたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホームの相互研修以外での同業者との交流は少ない。	○	・今後は地域内のグループホーム事業所と互いのスキルアップを目的として交流の機会を持ち、現在交流を行うよう進めている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・職員のストレスが軽減するように困難な事について話し合いをしている。 ・休憩を確保できる場所がないが、個々に工夫をして確保に努めている。	○	・現場を見た上で困難なケースについて、具体的な話し合いの場を作り、意見を反映させて欲しい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・運営者は常に施設におられ、大体のことは把握されているように思う。また積極的に講習等に行かせてもらえる環境にあるので、向上心をもって勤務に就いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・入所前の訪問・聞き取り調査(面談)など、本人に会って話を聞く機会を複数回持っている。それを受け、スタッフは情報を得て、入所される方の事情等を受け止めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・相談から常に時間をとり聞く機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時より、ご家族の意向や不安な事など傾聴し必要な支援を見極めるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人や家族の方に見学に来て頂き、信頼関係を築くことを第一に考えて伺った生活歴を踏まえ、最初はお客様と言う関係から、性格や活動状況を見て、その利用者にとって、ここが何であるかを見て、それに合わせた言動をとるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・性格や趣味、活動を把握し、利用者の方から学んだり、会話を重ねる事で感情を共有して、共に助け合って生活していると言う気持ちを持ち、感謝の心を持って支援している。	○	・施設サイドからのアプローチや要望が強くないように努めたい。 ・学んだことが生活やケアで生かせるよう、今後も傾聴に努めたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・全家族となると難しいが、常にご家族と一緒にご本人を支援していく関係作りを心がけ、家族の考えを十分聞いて理解するように努めている、	○	・家族への話は、管理者が多いので、職員も同席して共有したい ・家族からいつでも何でも言ってもらえるような関係作りをしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・催しがある度に、ご家族に案内し、面会等家族と一緒に時間が過ぎる様な心配りは怠っていない。 ・面会時は居室に案内したり、談話室を利用してもらい、ゆっくり話せる雰囲気を作りこれまでの家族関係が崩れていかないよう、関係が保たれるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・今でも大切にしてくられた人間関係や物品を見せて頂いたり、伺ったりしている。 ・家族やその他、電話で依頼があった時は支援している。	○	・面会のみならず外出したり自宅へ帰ったり馴染みの場所へと職員と行けるように支援できる体制を整えていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・利用者同士が避けあったり、孤立していないよう、職員が状況を見て声をかけるよう努力し、トラブルがあった時は、職員が間に入り、全員同じテーブルに集まって頂き、レクリエーションや談笑を行い、全利用者の方が良い関係を築けるように努めている。		・トラブルになりそうな時は早い段階で見極めフォローしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・長期入院による退所や他施設へ行かれ、施設を離れた場合でも、様子を伺い面会に行き関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の関わりの中で、ご本人の希望に沿うよう意思の確認を怠らず受け止められるようににケアをしている。	○	・要望が困難な場合には、家族に説明や協力を求め、一緒に改善するように努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前から、家族から大まかな生活歴を記入する形で提出して頂き、それを基に入所されてからは利用者の方と話をしより詳しい情報を伺い、それらをケアや個々の取り組みに反映させている。	○	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・長期的に生活リズムを理解し、短期的に体調等を見極め、出来ること・出来ないことを把握するようにしている。	○	・職員主体にならないように利用者の方主体で生活をして頂く様に心がけて行きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・ご本人や家族の思いや意見を伺い、スタッフは予め検討用紙にタップがの視点で必要だと思うことを書き出し、回覧・記入しそれらを基に、職員会議等で話しあい個別の介護計画を職員会議でカンファレンスし、介護計画を立てている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・若干の時間の誤差はあるが、見直しが始まる時期には全スタッフより意見を聞くよう書面にて記入する形で行い、緊急特変対応でも記録やスタッフに相談の上、行っている。	○	・時々期間が過ぎてしまうことがあるので、注意したい。 ・もう少し効率よく計画が立てられるよう勉強していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の様子や気づき等を課別に記録して、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かすようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・グループホーム以外の施設機能(泊まり・通いなど)はないので、多機能性を生かすことが出来ない。家族の方が施設に宿泊する体制は整えている。 ・外出支援、受診などの日中支援は施設の勤務に支障がないようになっており、要望に応じて対応している。		・なかなか外出支援が行えていないので、取り組みやすい環境を作りたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・地域資源との係わり合いは少なく今後の課題である。 ・消防との防火による連携は図れているが、それ以外の地域の協力体制は地区の公民館のサークル活動にて催しをして頂いているに留まっている。	○	・地域の活性と施設の向上を含め積極的に地域との協力体制や資源、特にボランティアを使えるよう、それらを生かす取り組みを事業所として考えていきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・グループホームでの生活が困難もしくは在宅で対応可能だと言う事例があり、その方が今後の生活において、最も適したサービスが受けられるよう、他のケアマネジャーと連絡を取って支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・地域の支援センターなどに互いに出向き情報交換や利用者状況などの相談を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人・家族の意向で状況に応じて適切な医療機関で診察を受けている。 ・利用者及び家族との相談により、希望される医療機関で受診を行い、それら医療機関とは関係性を築きながら、継続的な治療を受けて頂いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>・末期の対応は本人や家族の意見を早い段階で聞いておき、医療が不可欠なので、かかりつけ医等との連携がさらに深めていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>・もっと存在価値を他から認められるような生活が送れるよう支援していきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・基本は敬語と心がけ、生活暦や個々の性格に合わせた個々に合わせた丁寧な言葉掛けを行っている。また、プライバシーに関することは1対1で話すようにしている。	○ ・家族であるとの気持ちから、丁寧な声掛けでなく、地域性(方言)を含めた声かけも必要だが度が過ぎないようにしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・依存的な部分があり、常に聞き取りなどを行い理解能力に合わせて、表現を選んでいる。何かを選択する場合出来るだけ本人の希望を聞いて決定して頂くよう支援している。	○ ・内容によってこちらで決めてしまうこともあるので、もっと利用者の方の希望に沿うように、もう一度見直しを行いたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・個々のペースや体調もあるので都度傾聴を行って、無理にしたいことはないことはしていないが、生活リズムを一定化させるのも含め、施設や職員のリズムで生活している部分もある。	○ ・今以上にその人らしい生活をしてもらう為に、何が必要なのかを話し合い、個別ケアに力を入れていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・外泊や受診の時、家族と一緒にいける人もいますが、多くは移動式美容室を利用して、利用者の方が希望するカット等を行っている。	○ ・行きつけの場所を希望される方が少ないので、あれば同行可能である。 ・行きつけの店や好みの化粧品など個々に合わせていきたい。 ・自己決定の観点から好みの髪型にして頂けるよう、理美容のスタッフと協力していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者の方の能力を見極め、無理のない程度に食材切りや盛り付け等を職員と一緒にやっている。 ・献立を聞いたりして対応できるものは行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・飲み物についての嗜好は支援できているが、それ以外の項目に関しては出来ていない。	○ ・どこまで個人の嗜好に合わせられるかを話し合って実現させていきたい。 ・日常的に楽しめるよう茶箆筥やポットを置いて、利用者の方自身で行えるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・定まらない排泄パターンを日々記録し、出来るだけトイレでの自然な排泄が出来るよう時には時間の目安を決めてトイレ誘導を行い支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・週に3回入浴日が決まり、時間帯もほぼ固定となってしまう、施設や職員の都合の入浴体制となっている。ただ時間外の入浴も対応可能である。	○	・好きな時に入浴をして頂く為には、勤務体制を見直す必要がある。 ・小さい浴槽で個々に合わせた対応。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・前日の睡眠時間や日中の体調を含め、状況に応じて休息を勧めている。	○	・一人で居室にいることを嫌う方が多く、ホールなどで他者と昼寝できるようにしたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・今までの生活で好きなものや得意であったことなど聞いて、利用者の方の出来ることでの役割をつくり、もっと楽しむ事が出来るように心がけている。	○	・一人ずつの楽しみは違うが、より多く希望を聞き、自主的に参加出来るようにしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金の自己管理は行っておらず、支援は出来ていないが、お金を立て替えて本人にお金を渡して、自分で支払えるように支援している。	○	・利用者の方の楽しみを増やすためにも個々にあわせ外出や外食の機会を持ちたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・一人で自由に出られることはなく、戸外に出かけるのはほとんどが散歩程度なので、希望通りのことが出来ていない。	○	・もっと個人の意見を聞き、なるべく行き先を聞いて希望にそうようにしたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・季節を感じられるように計画を立て少なくとも年1回支援をしている。	○	・季節感を取り入れ、もっと外出機会を増やしたい。 ・少数個別の外出支援を行いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話や手紙を希望された方への対応はしているが、職員から直接は働きかけは行っていない。	○	・手紙を書かれる時、職員も一緒に文章を考えながら簡単でよいので日常的に出来るように進めていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・家族の方ももちろん、馴染みの訪問者にはゆっくり過ごして頂くよう、居室に案内したり談話室を利用して頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・おおまかに全員が理解しており、それに基づいた身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・外へ出ることで転倒するリスクが高い方の居室は少し制限があるが、それ以外の外へ出る場所は鍵を掛けていないが、時々利用者の方が施錠しておられることがある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・昼夜問わず利用者の方の居場所は常に意識し、把握している。居室で過ごされていても、定期的に見回りを行っている。	○	・利用者の方の行動を規制するのではなく、状況を把握して、職員間の連携を図りながら危険など予測できることは回避していきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・ハサミや針など安全に管理が出来ない人は使用時以外は管理させて頂いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・利用者の方の状況を把握して、ミーティングなどで共通理解に努め事故がないように取り組んでいる。	○	・職員各自で研修に出かけたり知識を高めようと努力をしている。 ・リスクに関する会議を定期的に行うようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・各自が救急法の研修に出かけている施設でも救命士の指導による救急法を学んでいる。書式化された個々の応急方法や緊急時の対応方法があるので、事故が発生した場合でも対応できるようになっている。	○	・年2回だけでなく、定期的にかつ地域の方にも参加して救急救命自体の理解を深めていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年2回消防防火訓練を行っているが、地域と協力をして避難訓練を行えていない。	○	・今後は施設での避難訓練を行う際は、地域に回覧して1人でも参加していただき、訓練の内容や、どのような協力をしていただくかを話し合い、マニュアルを作成したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・管理者が家族にこれから起こり得るであろうリスクについて家族に話して十分に説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・日常の状態を把握しており、顔色やバイタルサイン、歩行状態その他の観察を怠らず、異変に気付いたら情報は共有し状態が悪い場合は病院へ連れて行き、管理者に報告している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・利用者の方の処方はおおまかに把握して、用法、用量を守って服用して頂いている。	○	・あまり副作用までの把握は出来ていないので、看護師と相談の上、学習する機会を持っていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・毎日のヨーグルトや寒天を使ったりと食事の中や適度な運動を行い、便秘にならないような対策をとっているが、便秘等でその日の状態で補助的に薬で対応している。	○	・なるべく薬に頼らないよ排泄が出来るよう支援していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後口腔ケアを行っており、個々に対応し、見届けたり、声掛けを行っている。義歯の方は、はずしてブラッシング、就寝前に洗浄剤に漬けて置きをしている。	○	・本人に任せられている方も時々口腔ケアの確認が必要。出来れば歯科医の訪問指導などを受けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個々に合わせた食事量、形態に対応しており、また水分量も毎日チェックして、日中不足と思われる場合は適宜好きなものを提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・感染症に関するマニュアルが作成されており、それぞれの感染症が発生した場合は、マニュアルの沿い、スタッフも媒介にならないよう、防護しながら自己管理に努めている	○	・入居者訪問者においても、手洗いうがいなどを取り決めがあり、実行しているが、徹底していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・食材は購入したら直ちに冷蔵庫にて保存し、各調理器具も定期的にハイターで消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関は施錠を行っていないが、来客の方が呼びベルを押しても、中に入れないので、親しみに欠けているように思う。	○	・玄関先に何か明示しておいたり、周辺も花や親しみやすいものを配置する必要がある。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室の窓の内側に障子があり、日差しを防いでいるホールなどもブラインドがある。窓は全てサッシで、外からの不快な音が直接届かない。 ・季節を取り入れるような壁飾りや花を飾ったりしている。	○	・ホールの高い天窓から差し込む日光が、強い時間帯は大変まぶしくカーテンなど工夫をしたい。 ・利用者の方主体で花を活けたりしたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・廊下の途中に談話室や木のベンチがあるので、一人あるいは気の合った人と過ごせ、ホール全体として、中にテーブルを配置して、座る位置も工夫している。	○	・ホールにもソファを置いて、くつろげるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・やや不足がちではあるが、家族の協力を得てなじみのものを持ってきていただいている。	○	・家族の協力など得られない場合は、職員が工夫して、その人らしい居室になるようにしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・換気については24時間換気が出るシステムになっており、温湿度計を設置しているので温度調節も入居者に合わせこまめに調節している。		・冷暖房が効きすぎる事のないように、職員に合わす事のない様、心がけていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・施設内はバリアフリーになっており、浴室には手摺や滑り止めを設置。危険なものは取り除き、安全な状態で生活して頂くよう注意している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・高い位置にその場所の目印を設置してあるので見にくいように思われるが、新しく入られた方でもすぐに場所を把握するよう、スタッフが声をかけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・前庭には樹木や花があり、裏庭には畑、そして中庭にはくつろげる環境になっており、個々の能力に合わせて、その場で楽しんで頂けるように支援している。	○	・体調や天候などの条件が合えば、外での活動をなるべく多く取り入れたい。 ・ベンチなどを設置しているが、利用者の方自ら出られることが少ないので、出やすい工夫をしたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・とにかく衛生面の管理は徹底しており、食前後の手洗い・うがい（口腔ケア）を行っている。
- ・生活暦や身体状況もあるが、食事や洗濯の一連の行動は、利用者の方が『自分の仕事』として継続的に行っている。
- ・気付いた点や注意すべき点は職員間で連携を図り情報を共有している。
- ・職員は理念に基づいたケア行動を行っている。